

きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

令和5年 学校教育だより

September 9 第358号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711(内線622)



絆～102人の思いを一つに～

写真提供／針ヶ谷小学校

地球のきもち

勝瀬中学校 一年

池田 佑哉

雨がふっているときは

空がくもっているときは

地球が悲しくなったとき

空が晴れているときは

星がきれいに見えるときは

地球がよろこんでいるとき

地球って表情ゆたかだね

はじめに

令和三年度からGIGAスクール構想の推進に基づき、一人一台端末、通信ネットワーク等の学校ICT環境の整備・活用により、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実などの教育の質の向上が、急務となっている。学習指導要領でも、「情報活用能力の育成」が明示され、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用した学習活動の充実を図ることが求められている。

本校では、令和三年度から令和四年度の二年間、ICTの活用について学校研究を行ってきた。今回はその内容を端的に紹介する。

研究のスタート

本校では、令和三年四月に富士見市教育委員会より貸与されたタブレット型パソコンの活用が始まった。また、教室ごとに、モニターの設置もなされた。

このような流れの中で、職員間で、「ICT」機器、ソフトやアプリの使い方、授業での活用の仕方などを共通理解する場をつくり、職員の意識改革、実践力向上を図ってきた。一人一台端末を用いて学習する機会を意図的につくる中で、

生徒の文字入力、機器の使用などのスキル向上、情報活用能力を高める指導を考えたり、授業での実践の内容を全職員で共有したりすることによって、「ICT」活用につながる研究を進めていくこととした。

生徒端末を効果的に活用した学習の展開
授業実践・情報モラル・諸活動での「ICT」活用・校務での「ICT」活用、

研究部での取組

授業研究部の取組について説明する。授業研究部は主に教科主任が中心となり、ICTの授業の生かし方について研究してきた。

多くの取組の中で、デジタル教科書や、Microsoftの

Teams、ベネッセのミライシードなどさまざまなアプリケーションソフトを使用してきた。いくつか各教科の活用場面を紹介する。
国語科では、授業の感想の集約や意見の共有、音読の録画などを試した。書き初めの授業では範書の動画を一人ひとりのタブレットで閲覧し、書き初めに取り組んだ。それにより筆遣いを繰り返し確認し練習することができた。



水谷中学校 3年 安井 優

世界一思い出に残った体育祭

私たちの中学校では、5月に体育祭を行いました。入場では、団ごとに声出しのパフォーマンスを行い、競技以外においても全力で楽しみながら取り組むことができました。特に全員種目の大縄や応援綱引きなどの競技では、学年の垣根を超えて団が一体となっていたのを肌で感じました。長距離走では、先生も生徒と一緒に走り、盛り上がりを見せました。終盤の水谷中学校伝統のよさこいも全員参加。一人ひとりが全身を使った舞いは、大迫力でした。閉会式では、肩を組んで生徒全員で校歌を熱唱しました。水谷中ならではのよい体育祭でした。



わかる授業 = 勝瀬中学校 学校研究 =

「生徒端末を効果的に活用」 ～授業実践・情報モラル・諸活動での



数学科では、授業者の端末の資料を、生徒端末と共有し、生徒の手元で解答などの内容

特別支援教育

愛される人間をめざして

富士見台中学校 教諭 春日 彩香

富士見台中学校よつば学級は、生徒五名・教員三名で新年度をスタートしました。素直でひたむき、頼もしい三年生二名と、明るく元気なお話が好きで一年生三名がお互いに助け合って学習をしています。よつば学級の目標は、「愛される人間をめざす」です。その理由は、生きていくためには周りの人との助け合いが必要になると考えるからです。

が共有できるように活用し、個々の実態に合わせて学習を進めることができた。



社会に出て、自分の力では乗り越えられないときもあ日ごろの挨拶や人のためになる行動を積み重ねていくと、周りの人から助けられるようになります。周りの人を助けたり、助けられたりしながら生きていってほしいと思います。「愛される人間をめざす」ために、毎日楽しく過ごしたいと思えます。

はやぶさ学級では、販売学習に向けてのポスターを、生徒端末を用いて作成をし、意欲的に取り組むことができた。



成果と課題

成果

・日々の活用を通して教員・生徒の両方が扱いに慣れてきた。それに伴い、二年前と比較して、授業で「ICT」が使われたり、宿題・課題を生徒端末を用いて行われたりしている。

・お互いアドバイスをし合いながら授業、委員会等に活用ができています。

今後の課題

・持ち帰りや、使う場面の精選・許容。

・アナログとデジタルのベストミックス。
・アプリケーションのさらなる活用、個別最適化の研究。

また、道徳や特別活動の時間を通して、ネットのモラルや機器の扱いに関するトラブルなど、生徒の意識を高めていく必要性が見られる。

今後も、様々な活用を通して、よりよい授業を目指していきたい。

指導・講評

勝瀬中学校長

内海 幸二郎

手探りながらも「まずは使ってみる」ところから始まった本研究は、従来の指導方法のよさと「ICT」の可能性をそれぞれ最大限発揮した教育活動、家庭との連携、校務の効率化等、小緑教諭を中心に全職員で取り組んだ研究結果を多くの学校と共有させていただくことで役割を果たしました。

小学校・中学校、家庭、地域が密接に連携し、九年間を通して児童・生徒の資質・能力の向上に「ICT」をより効果的に活用できるよう、本校ではこれからも実践を重ねてまいります。

体験が生きる力をはぐくむ

ふじみ野小学校 保護者 森山 祥一

「生きる力」とは「人生の困難を乗り越える力・やりたいことを実現する力・命を守る力」などに置き換えて考えることができる。子どもたちの「生きる力」をはぐくむためには、大人たちが、時に叱咤激励し、時により理解者となり、人生の伴走者として成長の階層に応じ見守ることが必要である。我が家には、娘が二人いる。平日は、子どもたちに学校であった一日のできごとを聴く。子どもたちなりに人の気持ちをよく考え、学校行事に熱心に取り組み、学校生活が楽しくなるよう過ごしている。日々感心する。

この時はよき理解者として接している。子どもたちは親との会話を通じて、気づき考え、子ども社会で遭遇した人生の困難を乗り越えている。この繰り返しだが、社会を生き抜く強さにつながるのだから。

休日は、外で子どもたちと遊ぶ。子どもたちは海・川・山など自然と関わる遊びが好きだ。川や海では、必ずライフジャケットを着用して遊ぶ。



子どもたちは股ベルトをしないと、深い場所では脱げて溺れる危険があることを知っている。だから忘れぬよう下から順番に正しく締めつけていく。子どもたちは安全に楽しく遊ぶための知識を体験を通じて学んでいる。大人と子どもと一緒に遊ぶことは、子どもたちにとって楽しい校外学習と同じであり、異なる世代と遊ぶことで命を守る力をはぐくむことにもつながっている。

これからも子どもたちと様々なできごとを共有し、人生を共に楽しみ、親子で「生きる力」をはぐくんで行きたい。



ウェルビーイング向上をめざして

東中学校

本校では、タイトルにあるウェルビーイング向上をめざした教育活動に取り組んでいます。生徒が自分らしく成長し、幸せや生きがいを感じる。できる学校をめざし、部活動や委員会活動では生徒が自発的・主体的となり活動しています。

また、本校ではすべての生徒が自転車通学であり、安心して安全に登下校できるように生徒会や生活委員が中心となって自転車のマナーアップに力を入れています。生徒一人ひとりのウェルビーイングを高め、生徒の生きる力をはぐくんでいきます。

例えば、学年委員からの提案で、各クラスの給食準備の様子をオンラインで繋ぎ、二・三年生の様子を一年生がリアルタイムで見られるようにしました。これは上級生がお手本となって学校全体の給食準備を速くしていこうという生徒発案の取組です。

また、本校ではすべての生徒が自転車通学であり、安心して安全に登下校できるように生徒会や生活委員が中心となって自転車のマナーアップに力を入れています。生徒一人ひとりのウェルビーイングを高め、生徒の生きる力をはぐくんでいきます。



はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

感謝をつなぐ子育て

富士見特別支援学校 保護者 佐藤 裕子

二人の息子がいる母として十八年が経ちます。そう考えると、月日が経つのは長いようで、短いものだと思います。

長男は、二十歳を迎え、自分で見つけてきた将来の夢のために日々頑張っており、母親として見守っているところです。彼に支えてもらっていることも多く、子どもとしてではなく、一人の大人として社会に出ていると感心しています。

次男は、特別支援学校高等

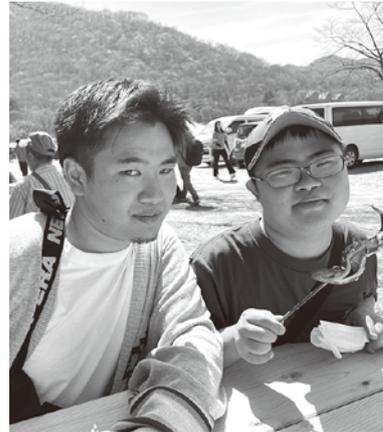
部三年生になり、卒業に向かつて日々過ごしています。二人の子を育ててきて思うことは、育てられたのは私だということ。子どもたちは、保育園や小学校、中学校を経て高校へと学びの場を移りゆく中で、私もその時々先生方や他の子のお父さん、お母さん、地域の皆さんと関わり合うことで私の考えに変化をもたらせてくれました。それだけでなく、子どもたちとの関係にも影響

を与えてくれてます。すべてがプラスの影響ではありませんが、たとえマイナスになつたとしても、その後にはプラスに変化してくることもあり、それを今は楽しめるようになっていっていると思います。

子育ては親育てとよく聞きますが、それを今、とても実感しています。

子どもはその子を真ん中に、親、学校、地域の皆さん、その子を取り巻くすべての人がある手をつなぎ合った輪の中で育つと思つています。親の私も

両親にそのように育ててもらったことを感謝しています。この感謝のバトンをこれからもつなげていけたらと思つています。



子どもは地域の宝

地域と共に成長する学校

つるせ台小学校

つるせ台小学校では、「子どもたちの笑顔があふれ、家庭・地域と共に学び合う活力のある学校」をめざし、教育活動を進めています。子どもたちの成長には、保護者・地域の方々の協力が

必要だからです。本校では「生きる力をはぐくむ」ために、特に挨拶の指導に力を入れて取り組んでいます。挨拶は自立の第一歩です。児童のよい姿を

家庭・地域に示すことで、教育活動の理解を深め、よりよい関係づくりを構築しています。写真の「ハロースマイル運動」では、先に登校してきた児童が校門付近に立つて列をつくり、その後登校してくる児童に対して気持ちのよい挨拶をしています。児童からは「挨拶をすると自然と笑顔になる。なにより気持ちいい！」という声が聞かれます。

今後も挨拶を大切にして、家

庭・地域とともに成長する学校であり続けたいと思つています。



教育課題特集

生きる力を

「わからなくても わかりたい」

つるせ台放課後児童クラブ 主任 河野 広希

「俺の気持ちなんてわからないだろ…」

児童クラブの中で、子ども同士のケンカやトラブルが起きると、そこには気持ちのすれ違いが大きな要因としてあります。冒頭の言葉も、実際に子どもが発した切実な訴えでした。こんな言葉を前にして、軽々しく「わかるわかる」などとは言えません。「確かにわからないなあ。でも、だから話し合うしかないんだよ…」とつぶやくようにかかわり始めてみました。その子が、ぼつりぼつりと言葉を出し始めると、実はケンカしていた相手に対して、申し訳ないという思いをもつていたことがわかりました。お互いに自分の悪いところを認め合い、単純な解決に至らなくても、少しずつ事態はよい方向へ変わっていききました。人の気持ちをわかるということは大変難しいことだと感じます。特に子どもたちは、必ずしも正確な言葉で自分の気持ちを伝えられるわけではありません。上手くい

かないことの方が多くあります。しかし、子どもの対話の上手さよりも、聞く大人の側がどれだけ言葉にならない気持ちを汲み取れるかということの方が大切だと思います。「わかるようにしています。」「わからなくてもいい。わかりたいと思う気持ちに正直でありたい。」と思つています。「俺の気持ちなんて」という言葉の裏にある、わかしてほしいという気持ちにも誠実でありたいと思つています。その態度が、子どもにとって生きる力をはぐくむことにつながるのだと思つています。





暑い夏を乗り切る～うちわ展～

いろいろな工夫を凝らしたデザインのうちわで、見た目から涼しくなるように廊下に掲示しています。

東中

三十五日間の夏休みが終わり、残暑が厳しい日が続く中、二学期が始まりました。
二学期は、運動会や音楽会など多くの行事が計画されています。行事についても新型コロナウイルス感染症における制限が緩和され、コロナ前に戻りつつあります。一学期でその学年の基礎を身に付け、二学期では行事や学習を通して、さらに深められた内容を成果として発揮することとなります。子どもたちが達成感を得られたときの表情はすがすがしいものがあります。学校での子どもたちの生き生きとした姿を見ていただきたいと思います。
地域や保護者の方々には、是非、学校へ足を運んでいただき、ご支援ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。



水谷東小

東小、伝統の米づくり

地域の方にご指導をいただき、5年生が田植えを無事に終えました。おいしいお米ができますように！



西中



笑顔輝く体育祭

団長を中心にチーム一丸となって、全員が競技・応援に力一杯取り組み、思い出に残る1日となりました。



勝瀬小

海の生き物になりきった!!

2年生の「表現リズム遊び」の授業では、友達とコミュニケーションをとったり、動きをまねたりと笑顔あふれる活動を行いました。

「読み聞かせ」

富士見市立中央図書館 木谷 優希

皆さんは読み聞かせをしたり、してもらったりした経験はありますか。誰かに読んでもらうことはとても心地がよいことです。私は子どもの頃、たくさん読み聞かせをもらった思い出があります。

図書館で働いていると、日々いろいろな本との出会いがあります。読んだことのない本はもちろん、思い出のある本とも偶然出会うことがあります。その中でも、子どもの頃に読んだ本や、読んでもらった本と再会すると、とてもあたたかな気持ちになります。「この本、お母さんに読んでもらったな。」「友だちのお父さんが学校で読み聞かせしてくれた本だ。」と、大人になった今でも意外と覚えているものです。内容はあまり覚えていないけれど、読んでもらったときのことを鮮明に思い出せるものもあります。それは、読み手と共有する時間と空間が楽しいものだったからなのだと私は思います。

私の一番思い出に残っている本は、筒井頼子さんが書いた『あさえとちいさいいもうと』です。この絵本には「あさえ」と「あやちゃん」という姉妹が登場します。姉がいる私にとっては、自分たちのお話のように感じていました。この絵本には、



勝瀬中

地域とつながる緑の募金活動

ふじみ野駅前で生徒ボランティアによる募金活動を行いました。生徒は元気よく呼びかけ、道行く方々から募金の協力をいただきました。



関沢小

みんなが大切にしている3つの宝

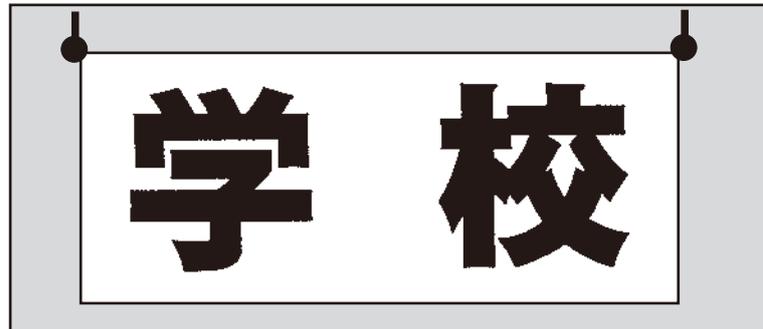
関沢小学校では、「あいさつ」「もくもく清掃」「かかとそろえ」を3つの宝として全校で取り組んでいます。



諏訪小

五月晴れのもとで

5月27日(土)、諏訪小学校運動場にて運動会を行いました。3年ぶりに全校児童が集い、共に汗を流しました。



みずほ台小

たてわり活動で最高の思い出を!

1~6年生の児童でたてわり班をつくり、みずほハッピーワールドを開催!全学年で協力し、お店を出し合いました。みんなが活躍し、最高の思い出をつくりました。



針ヶ谷小

ベストミックスへの探求

パソコンは文房具の1つ!学びとICTのベストミックスをめざし、子ども私たち教職員も、手探りしながら進めています。

姉の習い事のお迎えに行ったとき、車の中で母に読んでもらった思い出があります。その日の天気は大雨。そこまで覚えていたのは、好きな絵本だったからというだけでなく、やはり読み聞かせをしてもらっているその時間が特別なものだったからという方が大きいでしょう。実際、何度も読んでもらったはずなのに、思い出せるのはこの日のことだけです。

図書館でも親子で読み聞かせをしている子だけではありません。「読んで!」とせがむのに、いざお母さんが読み始めると、別の遊びを始めてしまう子もいます。それもきっと、絵本を楽しみたいというより、自分のために読んでくれるお母さんの声が心地よいからではないでしょうか。

私が読み聞かせをするときは、ただ絵本を読むのではなく、子どもたちにとって心地のよい時間と空間になるよう、ページをめくるとき、お話が展開するとき、子どもの目を見るようにしています。「おはなし会」に来てくれた子がいつか大人になったとき、何かのきっかけであの時を思い出してくれるような読み聞かせができれば、それ以上に嬉しいことはありません。

教育委員会だより

○令和5年度学校総合体育大会

関東大会・全国大会 結果

富士見台中学校 板山 桃花(1年)	水泳 女子 200m自由形・400m自由形 200m自由形 県大会7位 関東大会出場 400m自由形 県大会7位 関東大会出場
富士見台中学校 竹田 美ら(2年)	新体操 女子 リボン・フープ 県大会2位 関東大会出場
富士見台中学校 茶谷 太河(3年)	柔道 男子 個人戦 県大会3位 関東大会出場
富士見台中学校 葛西 颯次朗(3年)	柔道 男子 個人戦 県大会2位 関東大会出場
富士見台中学校 吉本 大輝(3年)	柔道 男子 個人戦 県大会2位 関東大会出場
本郷中学校 川岸 龍太(3年)	テニス 男子 シングルス 県大会5位 関東大会出場
本郷中学校 中谷 陽香(2年)	水泳 女子 100mバタフライ・200mバタフライ 100mバタフライ 県大会2位 関東大会出場 200mバタフライ 県大会2位 関東大会出場
東中学校 新井 真央(2年)	卓球 女子 シングルス 県大会7位 関東大会出場
西中学校 鈴木 瑠華(2年)	水泳 女子 100m平泳ぎ・200m平泳ぎ 100m平泳ぎ 県大会3位 全国大会出場 200m平泳ぎ 県大会1位 全国大会出場
西中学校 吉原 優花(2年)	水泳 女子 100m自由形・200m自由形 100m自由形 県大会7位 関東大会出場 200m自由形 県大会2位 関東大会出場
西中学校	男子バレーボール 県大会準優勝 関東大会ベスト16位
勝瀬中学校 秋葉 智貴(3年)	卓球 男子 シングルス 県大会敗者復活戦勝ち上がり 関東大会出場
勝瀬中学校	卓球 男子 団体戦 県大会2位 関東大会出場
勝瀬中学校 庄子 高栄(3年)	陸上 男子 砲丸投げ 県大会1位 関東大会1位 全国大会3位



私の今年の担当クラスは六年生です。三十六人の学級で、ものすごくエネルギーのあるクラスです。

このクラスが全員で大切に

え集団のためになることを常に

私自身もこのクラスで過ごすこ

ていることは二つあります。一つ目は「周りの方に信頼される人になること」二つ目は「戻ってくるのではない今を全力で楽しむこと」です。

一つ目の「周りの方に信頼さ

三十七人で行くチーム6の2

関沢小学校 教諭 島田 智也



れる人になること」は、関沢小学校の最高学年として下級生に背中を示すことができるように意識しています。また、クラスの中でも、自分のことに加

小学校生活最後の一年間として、卒業した後に悔いが残らないように常に時間を大切にして生活しています。過ぎた時間はもう二度と戻ってくるのではないので、

とができる「今」を大切にすることがとても楽しみです。

意識して日々を生活しています。私は、このように日々努力するこのクラスの子どもたちを心から信頼しています。

二つ目の「戻ってくる」ことのない今を全力で楽しむこと」では、

編集日記

夏の終わりに思い出を振り返ってみた。夏といえば、海、かき氷、セミの声、花火、風鈴、スイカひまわりの花…。

小学生の夏、海に行った。車で到着したその場所は、美しい海をバックに野生の猿が暮らす場所。かわいい小猿や貫禄のある大人の猿。時には「キキョー」と声を上げ追いかけて。初めての風景にドキドキした夏の日の海(猿)の思い出。

友だちと夜祭に出かけた。イベントの中で行われたのは、打ち上げ花火。花火に点火されるたびに「ドーン」と体全体にその振動が伝わる。暗い夜空に広がる色とりどりのその景色と音に心を奪われ感激した、夏の夜の花火の思い出。

太陽サンサンと降りそそぐ、夏の小学校。汗をかきかきゲームをしたり、プールに入ったりお楽しみのメインイベントは、スイカ割り大会。目隠しをして棒を片手に、三回まわってスタート。まさに、これがベタな昭和のスイカ割り。最後には割れたスイカを皆でほおばった。夏の日の甘いスイカの思い出。

皆さんの心に残っている夏の思い出はどんな思い出ですか。

(齊藤七実)